

---

# 願い

来実

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
願い

【Nコード】  
N5558I

【作者名】  
来実

【あらすじ】  
平次が黒の組織と決着をつけにいく設定で、和葉視点のお話です。

## 第一話

突然の事だった。

「和葉が好きや」

平次にそう言われたのは。けど、平次の言葉には続きがあつて。

聞かされた内容は、あまりにも残酷で。

夢だつたらと思つた。

「生きて帰つてこれる確率は、ほとんどないに等しいねん…。それでも…それだから、和葉にはちゃんと気持ち伝えたかつたんや。」

切ない笑顔で、平次はそう言つた。

そして、工藤君と一緒に、ある組織を潰しに行くのだと。

そう、言つた。

《行かないで》

つて、本当は言いたかつた。でも、わかつてた。この顔をしてる平次は、止めたつて絶対に行つてしまふ。だから、

「アタシも、平次が好きやよ？だから。だから絶対帰つてきて！アタシを、泣かせんといて！好きな女泣かすなん、最低やからね！」

最後の方は、いつもの調子で、噛み付くように言った。

平次は、笑みを向けた。

いつもアタシをドキッとさせる、不敵な笑みを。

「じゃあないなあ。和葉のために帰ってきたるわ」

「約束やで？」

平次は、アタシの頬に手をそえて、視線を絡ませた。

そして、静かに唇を重ねる。

「…約束や」

アタシと平次は、抱きしめあった。お互いの存在を確かめるように、強く、きつく、痛いくらいに。

そうして。

まるでいつもと同じように「行ってくるわ」

と言って平次が発したのは、一週間後の事だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5558i/>

---

願い

2010年10月10日15時46分発行